

キュードビル

No. 10-034-2014作成
新築
事務所

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|---|
| 発注者 | 株式会社 東京エネシス | カテゴリー | A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB |
| 設計・監理 | 設計:清水建設・東電設計設計共同企業体 監理:東電設計株式会社 | E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携 | |
| 施工 | 清水建設株式会社 | I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他 | |

省エネと快適性の両立を実現するブラインドレス・オフィス



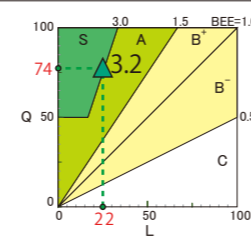
シミュレーションにより決定した角度のエコフィンが全面に取りつく外観

東京につくるミッドサイズ的环境オフィスとは

東京都心の中小ビルが密集する街に、環境配慮の中規模オフィスとは何かを建築・設備が一体となって取り組んだ。東京のオフィスは直射光や内部発熱により、年間を通して長期間冷房を求められる。また、眺望・採光の為の透明なガラスファサードが近隣お見合いの原因となり、また直射光による冷房負荷削減のためにブラインドを降ろしてしまう。結局眺望も採光も得られない現実。本計画では、自然採光が届く奥行の浅いL型ワークスペースを配置、アウトフレーム柱とエコフィンを組み合せ、年間を通して直射光がない「ブラインドレス・オフィス」とした。さらに換気窓を組合せることでエコファサードを実現した。オフィス内は全面床吹出空調による居住域置換空調として、

ダクトと天井材を無くし、低階高ながらゆとりがあり、穏やかな間接光で満たされた「素」の豊かなスペースを実現した。中央のエコポイドは自然換気・採光とともに、コミュニケーションの核として設えた。空調においては、快適性と省エネを両立する潜熱・顕熱分離空調（調湿外気処理空調機+高顕熱型パッケージ）を採用したことに加え、全面床吹出空調と室外機最適運転省エネ制御の組み合わせにより、更に空調の高効率化を実現している。その他タスク&アンビエント空調・照明、外気冷房、太陽光発電、エコポイド上部の太陽光採光装置等により、個別空調方式のオフィスビルでありながら都内の一般的なオフィスビルと比較して50%以上の省エネルギー効果を実現している。

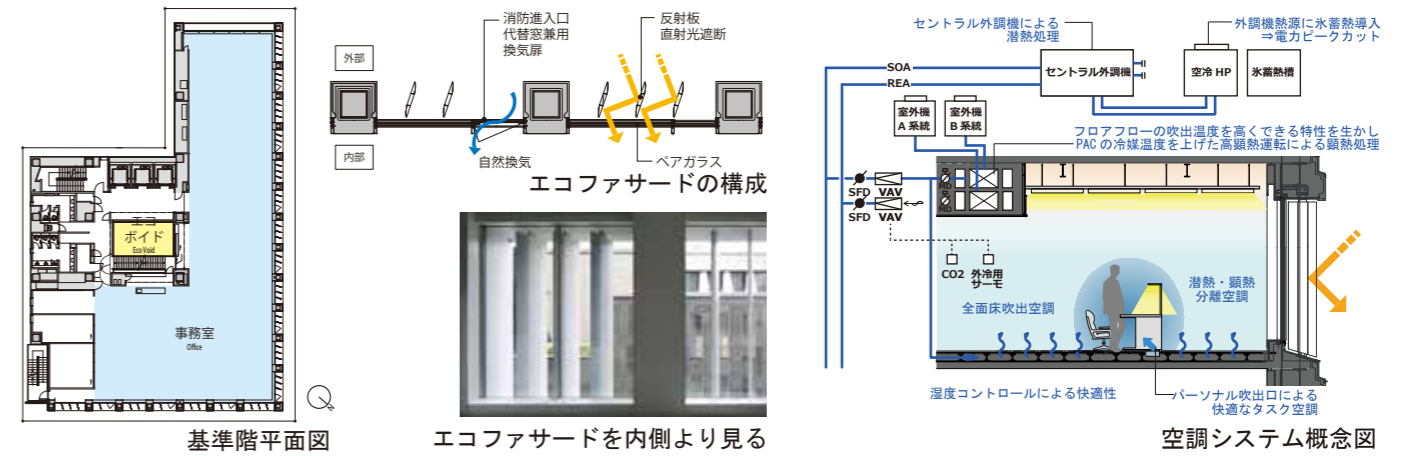
| | | |
|-------|---------------------------|-------------|
| 建物データ | 省エネルギー性能 | CASBEE評価 |
| 所在地 | PAL削減 29 % | Sランク |
| 竣工年 | ERR (CASBEE準拠) 40 % | BEE=3.2 |
| 敷地面積 | LCCO ₂ 削減 28 % | 2010年度版自己評価 |
| 延床面積 | | |
| 構造 | | |
| 階数 | | |



全面床吹出空調の採用で天井材を無くし、低階高でも解放的な事務室



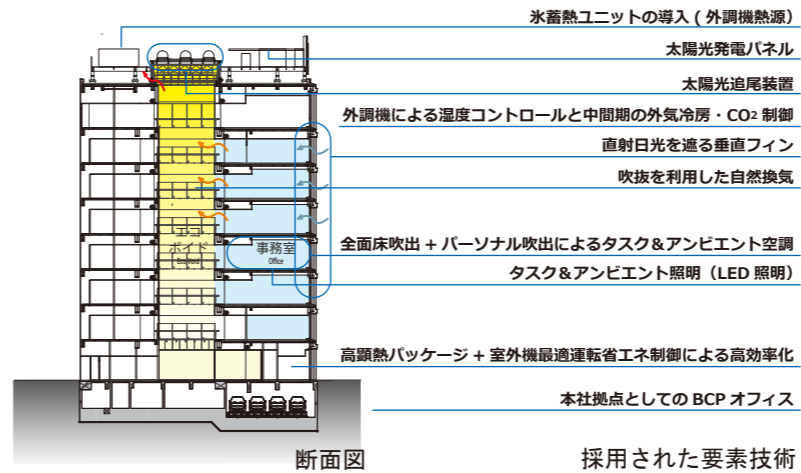
エコポイドによる自然換気と自然採光



基準階平面図

エコファサードを内側より見る

空調システム概念図



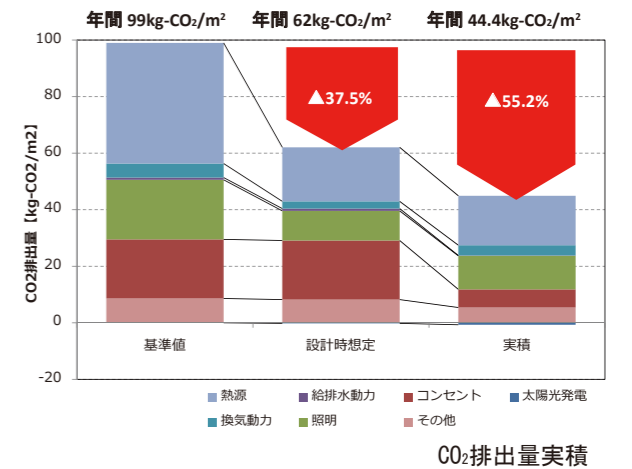
設計担当者

建築 (清水建設) : 河本洋一、今井宏、日野陽子、山田徹、井上峰一 / 構造 (東電設計) : 上山 等、平原 健一 / 設備 (清水建設) : 池田真哉、森田英樹、伊藤純、石川栄一、松尾昌一

採用された要素技術

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷制御 (日射遮蔽ルーバー)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (エコポイド、太陽光発電、太陽光追尾装置、外気冷房)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (氷蓄熱、高顕熱型パッケージ、全面床吹出空調+パーソナル吹出、タスク&アンビエント照明)
- LR1. 4. 効率的運用 (室外機最適運転省エネ制御)
- LR2. 1. 水資源保護 (節水型機器)
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮 (LCCO₂削減)



CO₂排出量実績